

第3回道の駅整備検討委員会 議事概要

場 所:安中市役所本庁舎 303会議室
日 時:令和6年3月18日(月)14:00~15:00

【出席者】

(委員)別紙名簿のとおり
(市)岩井市長、齋藤課長、吉田課長補佐、白石主査及び荻原主事
(委託業者)株式会社アイ・ディー・エー

【開会】

(市長)第2回検討委員会では、委員から碓氷峠鉄道文化むらと道の駅を一体化して整備する新たな提案があり、皆様に活発な議論をいただいた。また、市民などから基本構想に関して広く意見を募集したいため、2月29日まで約3週間パブリックコメントを実施した。

2月4日には、国土交通省の道路局長、国会議員の方々に対し、国との一体型の道の駅整備の検討を要望してきたところである。皆様には既に修正案を何度かご確認いただいているところだが、本日は基本構想策定に向けた最後の委員会となる。

横川駅周辺では、3月30日の夜に鉄道廃線跡を利用した映像や音楽などで幻想的な世界を楽しむナイトパークを開始する。また、峠の湯やコテージについても新たな指定管理者を迎え、リニューアルして碓氷峠一体を盛り上げていく。4月以降も皆様にご協力ご支援いただき、安中市の新たな観光スポットとして、多くの人々に楽しんでもらえるような施設を目指して、道の駅を整備していきたい。

【内容】(議長:委員長)

<協議事項>

(1)第2回委員会議事概要について

(委員長)これまで基本構想案については、どのような道の駅にしたいか、皆さんから自由にご意見を出していただき、皆さんと相談しながら進めてきた。本日も、引き続き活発なご意見をお寄せいただきたい。

(事務局)本委員会の議事録や配布資料、委員名簿をホームページで共有してほしいとの意見があったことから、今後、本委員会の議事録などもホームページで公開してよろしいか。

(委員)異議なし

(事務局)それでは、委員会の配布資料や委員名簿、議事録をホームページに掲載し、市民に広く情報を共有するよう努める。

(1)第2回委員会議事概要について

(事務局)第2回委員会は、1月22日に開催した。地元意見交換会を実施し、その中で、めがね橋などの観光資源と連携すべきなどの意見があったことについて説明した。また、委員から、碓氷峠鉄道文化むらを道の駅と一体化して整備することで観光地の目玉になるとの提案があり、委員の皆様へ審議いただき、現行案に加えて一体化型案を基本構想に盛り込むこととなった。今後、基本計画を策定する中で、コストやスケジュールを示し、整備場所について審議決定していきたい。

基本構想案については、農産物や特産物を提供する能力、出荷先の検討、全域を一度に開発せず、段階的に開発することなどで持続的な誘客に繋がる、ツーリングに対する配慮などのご意見をいただいた。

(2)安中市道の駅基本構想(案)について

(IDA)今回、基本構想案には、どんな機能があつたらいいか自由に意見を出し合った結果を取りまとめている。その一方で、全ての機能を盛り込むのは難しいというご意見もあった。そこで、1ページの下から6行目に「今後、基本計画や実施設計等において、市場調査等でニーズを把握し、導入機能の追加や絞り込みを行い、内容の熟度を高めながら検討を進めていきます。」と記載した。

18ページに、現行案に加えて、碓氷峠鉄道むらと道の駅を一体型する案を含めて検討していくことを記載した。

19ページの基本理念を表現したコンセプトの「駅がつなぐ道がつなぐ碓氷峠 SL ステーション」となっていたところ、「SL」を「交流」に修正した。アプト式電気機関車など世界遺産登録を目指している近代鉄道施設群を幅広く捉える、様々な人がこの道の駅で交流するステーションという趣旨で「交流」に置き換えた。

22ページの「道の駅の目的」に道の駅の基本機能の一つとして災害情報を提供するという内容を明記した。また、安中市観光機構との連携を明記した方が良いという意見を受け、「碓氷峠の観光資源を活用した観光案内観光体験プログラムの拠点とし、安中市観光機構と連携して観光客を惹きつける」と記載した。

24ページの「安中市らしいSLをモチーフにした建物デザイン」について、基本理念の修正と同じように、SLに限定することなく、安中市らしいデザインを検討していくという趣旨で修正した。

導入機能については、皆様からいただいた意見より、考え得る機能を列挙した整理になっているが、28ページに、今後、市場調査等でニーズを把握し、機能の選定や検討を行うという趣旨の表現を加えた。さらに、碓氷峠鉄道文化むらとの機能分担も含めた道の駅の整備、周辺施設との機能連携ということも考えられるので、段階的整備を視野に入れた文章に修正した。

(委員長)付け加えると、26ページの情報発信で、海外からの観光客に対応する情報発信、

誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した施設や環境を整えることも盛り込んだ。

《基本構想案の修正に対する意見》

(委員)道の駅のネーミングについては、映画のように、わくわくするような道の駅のセカンドネームをつけ、今後発展していくというイメージを発信してはどうか。

(委員)SLという言葉が理念から削除したのは妥当だ。60年間運行を担ってきた電気機関車EF63を鉄道遺産として、どうスポットを当てるかは今後の課題だ。

(委員)私もSLという表現を削除することには賛成。世界遺産登録に向けて碓氷峠鉄道文化むらの車両をPRしていけたらよい。

(委員長)それでは、追加の修正のご意見は特になくことから、これをもって基本構想としてよろしいか。

(委員)異議なし

(3)パブリックコメントの回答(案)について

(事務局)パブリックコメントは、2月7日から29日までの約3週間実施し、12名から合計51の質問があった。なお、回答案を作成して13日に委員にお伝えしたところ。

No.35とNo.43で、「SLステーション」と表記することにより、SLが一番クローズアップされてしまう、市の基本理念として前面に出すのはどうかなどの意見があった。委員からも同様のご指摘があったため、委員長と協議し、「駅がつなぐ道がつなぐ碓氷峠交流ステーション」に変更するという案をお示しご審議いただいた。

No.44についても、SLをモチーフにすることは削除し、「安中らしい建物」と変更する案を同様にお示しし、ご審議いただいた。

先ほど基本構想のご承認をいただいたので、No.35、No.44、No.45の末尾の「予定」は削除し、この回答で決定する。

No.6の軽井沢とは客層が異なるため、立ち寄りが期待できないとの質問については、「今後、基本計画策定時などの協議検討事項にさせていただきます」としていたが、基本構想の中に軽井沢からの誘客についての内容が記載しており、委員からもご指摘もあったため、変更案として「軽井沢町と真の連携を図り、観光誘客体制の構築を図っていく」としたいが、いかがですか。

(委員)異議なし

(事務局)それでは、No.6の回答については、先程お伝えしたとおり修正します。

(委員)軽井沢町を含めて二市一町で連携協定を結んで観光振興に取り組んでいるので、その案でよい。

(委員)軽井沢町のアウトレットは、かなり若い年代の方が多い。計画地も含めてアンケートを行い、ニーズ調査する必要があるのではないか。

(事務局)アンケート調査については、どのように行うか今後協議させていただきたい。

(委員)二市一町で観光連携協定を結んでいることもあるが、やはり軽井沢から観光誘客を図ることは非常に重要であるし、市長の公約でもあることから、軽井沢からの誘客については、もっとはっきり記載した方がよい。No.28の意見にあるマーケットリサーチ、これから行うニーズ調査、パブリックコメントの回答について、どのように公表する予定か教えてほしい。

(事務局)ニーズ調査などは、基本計画策定時に行う予定である。パブリックコメントの公表については、準備が整い次第、基本構想と併せて、ホームページで公表し、周知を図っていく。

(委員長)軽井沢駅前の旧信越本線の線路跡地に、三菱地所が商業施設を整備することが報道されている。旧信越本線の遺産を活用しながら、軽井沢町と安中市が競合するのではなく、それぞれの長所を生かした連携により、お客さんに来ていただくことがベストと思う。アンケート調査は大賛成で、ぜひやりたい。

(4)その他

(委員)国に対して、積極的に補助金などの予算をつけるよう要請してはどうか。道の駅をきっかけに観光業の誘致、県の観光地として発展するきっかけにしてほしい。

(市長)安中市の財源だけでは限度があるので、国からの財源も確保したい。先日も国交省を訪問し、国との一体化型の道の駅について相談した。デジタル田園都市国家構想交付金などDX推進でいろんな財源を活用できるよう、引き続き努力したい。

(委員)他の自治体では、未来に向けたまちづくりに向けて国も投資している。これまでの碓氷峠鉄道文化むらを維持するのもよいが、新しい近代的なもの、リニアなど未来に向けた展示ができればよいと思う。

(委員)道の駅についても若い人たちの意見が非常に大切と考えている。学生と意見交換したということだが、どのような意見があったのか。

(委員長)学生の意見として、26ページのユニバーサルデザインを入れさせていただいた。夏休みに学生30~40名で現場の見学とワークショップを行い、どんなコンセプトで道の駅を作ることが良いかみんなで議論し、あるグループの意見が基本理念の基に採用された。建物を電車と見立てて一号車を物販、二号車をレストランにするなど、横川の特徴を生かしてはという学生ならではの意見が出され、非常に良かったと思っている。

(委員)私も若い人に道の駅について意見を聞いたところ、きれいなパウダールーム、カフェが欲しいという意見があった。

また、委員のみなさんにはぜひ、現地を見ていただきたい。現地で気づくこともあると思う。そのうえで、オンリーワンの道の駅づくりを考えてほしい。

(事務局)パウダールームについては、導入機能の一つとして今後検討すると盛り込んでいる。

現地視察については、基本計画を策定する際に、委員の皆様で現地を視察する機会をつくりたい。ご協力いただきたい。

(委員)私もこれからは、若い方の意見を重要視した方がよいと思う。パブリックコメントでは収支を心配する声が多く、ランニングコストを抑える意識を持ちながら進めていただきたい。また、道の駅整備検討委員会が今後どのような予定で進められるのか、委員の追加があるのかなど教えてほしい。

(事務局)来年度、早めにプロポーザル方式で基本計画策定業務の委託業者選定を行ったうえで、委員会を開催したい。委員については、オブザーバーを含めて追加することを検討している。現在の委員の皆様には基本計画策定まで委嘱しているため、来年度以降もご審議をお願いしたい。今年度は、委員会を3回実施したが、状況によって実施回数を増やすことも想定される。ご理解ご協力をお願いしたい。